教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日令和３年２月５日

グループ名	府中第九中学校	代表者氏名	吉田　修
学校名	府中第九中学校	電話番号	042-367-0320
研究テーマ	生徒の道徳性を磨き、人間力を高めるための道徳教育の推進 ～道徳科と道徳教育の関連付け～		
研究期間	平成 31 年４月１日～令和３年３月 31 日まで		
研究結果の概要 ＊詳細は別紙により報告	**１研究主題設定の理由** 既存の知識や経験だけでは解決困難な問題に直面しています。求められる資質、能力とは何か、それは多様な価値観を受け入れ、他者を理解し互いに尊重し合うこと、そしてその中で自分の夢や理想を追求して生きていこうとする力だと考えます。人格形成の基盤である道徳性を高めることで、自己の生き方を追求し、自己実現を図ることができます。自己実現には知的能力要素の他に社会的・対人関係能力要素、そしてそれらを発揮するための自己制御的要素が必要ですこれら人間力を高めることが重要であると考えました。 **２仮説** （１）道徳科の特質を生かした指導の充実 （２）環境整備 （３）学校・保護者・地域が一体となり進める道徳教育の充実 **３研究の内容** ①組織で取り組む「特別の教科　道徳」の指導実践、 ②道徳科と教育活動のカリキュラムマネジメント ③教育活動と道徳科を関連付け可視化し、生徒の学びを後押しする道徳教育 ④保護者、地域への啓発活動 **４具体的取組** ①年３回の道徳研究授業を研修計画、ローテーション道徳で成果と課題を共有シートに書き入れ、指導力向上、「思考ツールの活用」、デジタル思考ツールを使った研究授業 ②起案文書に道徳との関わりを記す取り組み、職員室の学年黒板に別葉を掲示、重点目標に関わる道徳科のユニット単元学習 ③運動会や合唱コンクール、校外学習や地域清掃などの写真を貼りました。そしてそれぞれの活動の目的や道徳教育との関わりについての説明を写真の隣に添えて掲示、道徳スローガン、生徒の学びを後押しするオンラインの活用 ④学年だよりで定期的に道徳科の授業の様子を発信、保護者アンケートの結果や分析 ５成果と課題 数値が高い項目 ・「自分とは違う考えを知ったとき」、「自分のことを振り返るとき」 ・「話を聞いたりすること」「話し合うこと」「友達の考えを聞くこと」 △多面的、多角的に深く考える授業の工夫をした結果、「教材の主人公の気持ちや行動に対して共感し、自分事として考えをもったりすることがあるか」78.9％から 84.4％に上がりました。「道徳の学習で大切な考え方がわかったり、自分の課題や目標が見つかったか」については 71.4％から 73.6％に上がりましたが、全アンケート項目の中では依然低い数値 ◎「自分がよりよく生きるためにはどんな心構えが必要かわかるようになってきたか。」については★82％から 86.7％という高い上昇率		
その他 特記事項	平成 31 年度・令和２年度　東京都道徳教育モデル校		

学校教育目標と研究主題

学校教育目標
自己実現
創造　思いやり　活力

生徒の実態

素直で素朴な生徒が多いが、自己中心性が強く、「他者との関係の中で、他者と協調して物事を進めようという気持ちが薄い生徒が見受けられる。学年が上がるとともに人との関わりの大切さを学びとり、成長する生徒も多い。

教師の願い

他者を尊重し、切磋琢磨しながら互いに高め合い、自己実現とともに社会の中の一員として貢献できる人に育ってほしい。

道徳教育の目標

自他の生命を大切にし、生きることに真剣に向き合い、決まりを守り、思いやりの心をもち、集団や社会の一員としての役割や責任を果たし、人間としての生き方について深く自分自身で見つめられる生徒を育成する。

府中第九中学校 道徳教育の重点

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する態度を育む。

第１学年

他を尊重し、集団の一員として節度ある生活ができる生徒の育成

第２学年

自己の向上に努めつつ真の友情を深め集団の規律を高めていく生徒の育成

第３学年

自己実現を図り、社会の一員として責任のある行動のとれる生徒の育成

研究主題

生徒の道徳性を磨き、人間力を高めるための道徳教育の推進
～道徳科と道徳活動の関連付け～

道 徳 性

人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能とする人格的特性であり、人格の基盤をなすものである。生きていくうえで最も大切なものである。

道徳教育（教育活動全体）

道徳科（道徳教育の要）

人 間 力

知的能力的要素、社会・対人関係力的要素、自己制御的要素を総合的にバランスよく高めることと定義されている。

＊赤字は道徳教育との関連が深い箇所である。

知的能力的要素	社会・対人関係力的要素	自己制御的要素
基礎学力（主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力）、専門的な知識・ノウハウをもち、自らそれを継続的に高めていく力。またその上に応用力として構築される論理的思考力、想像力など	コミュニケーションスキル、リーダーシップ、公共心、規範意識や他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いが高め合う力	左記の要素を十分に発揮するための意欲、忍耐力、自分らしい生き方や成功を追求する力など

授業構想　～授業をデザインする～

―単位時間の授業の流れを大切にする【45分（50分）をデザイン】

問　い → 判　断 → 気付き

- 問い：
  - 道徳的価値についての問題意識
  - 自分との関わり
- 判断：
  - 友達、教師との交流
  - → ・自分の考えの確信
  - ・相違の気づき
  - ・価値観に対して疑問や迷い、悩み
- 気付き：
  - 自分の考えを再構築
  - 自己の考えを明確にする

道徳的諸価値の理解 → 対話的な学びを通して、様々な視点から理解する多面的・多角的な考え ↔ 自分の考え　自分との関わり → 自己の（人間としての）生き方について考えを深める → 児童・生徒の学びの姿へ

1時間の授業イメージを持つことが大切です。欲張りすぎないこと。

「価値理解」「人間理解」「他者理解」（「自然理解」）の視点も大切

「主体的・対話的で深い学び」の実現へ

Ⅰ　組織で取り組む「特別の教科　道徳」

Ⅰ　道徳授業地区公開講座

令和２年度：道徳授業地区公開講座　（テーマ：「友情」）

授業の様子

「友情」に関する発達段階に応じた教材を各学年で決め、授業を行った。学級の実態に応じた指導の工夫や思考ツールの活用がなされた。

意見交換会は、リモートでクラスとクラスをつなぎ、教材「泣いた赤おに」を用いて意見交換を行った。（平成３１年度は冊子参照）

２　ローテーション道徳

教科との関連

担当者	教材名	教科
A	命の木	
B	異文化の人々と共に生きる	英語
C	日本のお米	家庭
D	なおしもん	美術
E	栄光の架橋	保体
F	養生訓	国語
G	鳥がみせてくれたもの	理科
H	僕たちの未来	
I	私が働く理由	

教科に関連する教材で授業を行うことで教科担任制の良さを生かした。

記録し授業改善に生かす。

授業改善を続けるローテーション授業の記録

学級を変え同じ教材を連続指導したことでの学びなど、授業を行い授業改善を図る　◎：成果　△：課題　改：改善や試み

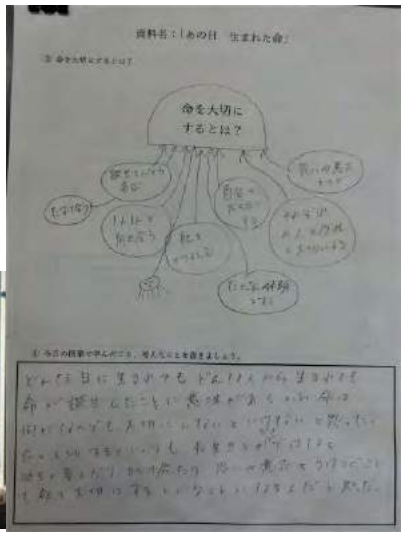
担当者	教材名	Ｉ回目	2回目	3回目	4回目	5回目
A	異文化の人々と共に生きる	ＩＣ△社会科の内容とつながる部分が多く、導入の部分が長くなってしまった。 ◎中心発問についてグループ内で話し合うことができた。	ＩＢ△導入部分が前回と同じく長くなってしまった。 △Ｉつ目の事例について上手く考えることができなかった。 ◎導入が長くなってしまったが、生徒の興味を引くことができた。 ◎範読を前半と後半で区切り、二つの事例について考えたので、考えやすかった。	・・・・・・・・・		ＩＤ◎生徒はワークシートに自分の考えをしっかり書けており、深く考えることもできたいた。
B	宇宙の始まりに思いを寄せて	△「感動」する場面を思い出させたが、生きていく上での「大切な原動力」につながるようなものがなかった。 ○話し合いは活発になった。 △話し合いが人生に影響するような「感動の心」まで至らなかった。	○感動の範囲を、スポーツ、映画、部活等に広げ、身近なところで思い出させた。 △生きていく上で「大切な原動力」にうまく繋げられなかった。	・・・・・・・・・		○映画、ドラマ、スポーツ、自分の趣味、部活などあらゆる場面で「すごい！」と思ったことを問いかけたところ、「感動したこと」というといかけより、多くの話が出てきた。
C	ちがいの意味を見直す	△導入の部分に時間を使いすぎて、最後の発問の時間などが短くなってしまった。 ○日常での具体的な場面から考えることができた。	△話し合いに時間がかかってしまった。最後の発問の時間が十分にとれなかった。 ○Ｉつ１つの発問をしっかりと考えることができた。 改　話し合いのテーマを複数用意し、より生徒の興味関心に合ったものにすることができた。	・・・・・・・・・		○グループでの話し合い、個人で考える時間をそれぞれとることができた。 ◎日常の具体的な場面から考えることができた。

ローテーションを行うことで教科担任制の強みを生かした道徳の授業ができる。また、授業改善へとつなげるために、各授業後には成果と課題の記録を残した。記録は学校共有の財産ともなった。道徳科の特質を生かした指導の充実が図られている。

３　思考ツールの活用

『電話番』の授業の様子

『あの日、生まれた命』の授業の様子



Ⅲ　生徒の学びを後押しする道徳教育

1　道徳科と道徳教育の可視化

生徒の学びや成長の様子を可視化

校内の掲示板に生徒の様々な活動の写真を貼り、活動の目的や道徳教育との関わりについての説明を写真の隣に添えて掲示した。学級活動や家庭学習の習慣などにも目を向けた活動等を紹介した。

学校内の様々な活動(入学の集い、生徒総会、避難訓練など)を道徳科の視点でまとめ、全体に示した。生徒は自分たちの活動を振り返り、体験から得た学びを認識し、互いのよさを認め合える人間関係の大切さや集団生活の向上を意識するようになった。

2　学校スローガンと学級スローガン

【令和２年度　学校スローガン】

【令和２年度　学級スローガン】

平成３１年度より各学級の道徳スローガンを掲げた。学級目標とは違う心の成長についても、各々が考える機会となった。令和２年度はそれに加えて、学校スローガンについて、各学級で話し合い、各学級から出されたアイディアを生徒会がまとめ、学校スローガンを決定した。

3　オンラインの活用

（１）ライブ配信でクラスを繋ぐ

令和２年度の道徳授業地区公開講座では各学級をオンラインでつなぎ、学校全体で意見交換会を行った。

生徒が日々過ごすクラスという慣れた環境だったため、発言してみようという気持ちが高まっていた。そのため昨年度に体育館で行った意見交換会に比べ、各クラスからの意見が多く集まった。

（2）臨時休業期間での課題の工夫

臨時休業期間中は各学年オンラインでも取り組める課題を提示した。オンライン上でワークシートに発問に対する考えを入れると、それに対するコメントが表示されるようにし、生徒の学びを後押しした。

2　生徒アンケート（２年間の比較）

	5教材の主人公の気持ちや行動に対して、共感し自分ごととして考えをもったりすることはありますか				
	アよくあった	イどちらかといえばあった	肯定的な意見の合計	ウどちらかといえばない	エなかった
2年次	23.3	55.6	78.9	14.3	6.8
3年次	20.5	63.9	84.4	10.7	4.9

	9 道徳の学習で大切な考え方がわかったり、自分の課題や目標が見つかりましたか				
	アよくあった	イどちらかといえばあった	肯定的な意見の合計	ウどちらかといえばない	エなかった
2年次	34.6	36.8	71.4	21.8	6.8
3年次	30.6	43.0	73.6	18.2	8.2

	10道徳の学習をして、自分がよりよく生きるためには、どんな心構えが必要かわかるようになってきましたか。				
	アよくあった	イどちらかといえばあった	肯定的な意見の合計	ウどちらかといえばない	エなかった
2年次	33.1	48.9	82.0	12.8	5.2
3年次	36.7	50.0	86.7	5.0	8.3

平成 31 年度の生徒アンケートで低い数値を示した質問項目については、様々な思考ツールを用いて、多面的・多角的に深く考える授業の工夫をした結果、いずれの数値も上昇した。

多様化する社会の中で、自分の夢や理想を追求しながら生きていこうとする態度の育成を示す質問項目の数値も上昇し、研究の成果が見られた。一方で、現2年生ではこの項目の数値が昨年度より低くなり、発達段階による差異がよみとれた。

成果と課題

成　果

・生徒は他者理解だけにとどまらず、自己の生き方を考えながら、人間としてどうあるべきかを考える意識が高まった。
・教員自身が道徳授業を工夫改善し、多様な指導方法を見出すことができた。
・道徳の授業だけでなく、保護者・地域を啓発しながら、教育活動の様々な場面で、道徳教育を念頭に置いた指導を意識するようになった。

課　題

・生徒が自らの生き方について考える際に、自分の課題や目標を、より具体的に設定し、行動に移していく実践力を養うこと。
・保護者や地域と連携できる道徳教育を念頭においた新たな取組を考えていくこと。
・デジタル思考ツールを、さらに効果的に活用できる道徳の授業研究を進めていくこと。